



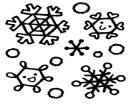
令和6年12月1日

12月 ちびっこの森通信

vol.91

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・冬の感染症に留意し、健康に過ごせるようにする
- ・季節の行事に参加して楽しむ



ひよこぐみ(0歳児)だより



日中とは対照的に朝夕の本来の冷え込みで遅れがちの木々の葉の色づきや落葉で何とか季節を感じられる今日この頃。みんなは少し前までハイハイや伝え歩き段階だったのに、今は昔で戸外あそびでは月齢上のお兄ちゃんやお姉ちゃん同様、靴を履き、公園では鉄棒へと一目散で向かい、プラプラとぶら下がるのが目下のところブームのよう。また、園内を見回して敷き詰められた色とりどり、さまざまな形の葉を手にとって眺めたり、感触や匂いなど自然探索を楽しむ姿が見られます。そんな活動的な様子は大勢の保護者の前でも堂々とかけっこや親子お遊戯などでも存分にその片鱗を見ることができたのではないのでしょうか。これからその成長ぶりに目が離せませんのでよく見守っていきたいと思います。



うさぎぐみ(1歳児)だより



今年も残すところ2ヶ月となりましたが、日中は夏の暑さが未だに尾を引く感じで「秋」はどこ、といった風情でしたが、お散歩でいく近隣のお寺の境内の木々の紅葉や落ち葉の絨毯にこどもたちなりに遅い秋を感じることができているようで何よりと感じています。こどもたちは行く先々で赤、茶や黄色の大小さまざまな形の葉っぱコレクションをして楽しめているようです。運動会ではスタートラインに立ち、元気に返事をし、「よ〜い、ドン!」の合図でゴールテープ目指し、一人ひとりが元気にかけっこできたのは良かったですね。また、お気に入りの「からだ☆ダンダン」は普段から笑顔deノリノリ気分で楽しんでいたので本番でも変わらない様子が披露できて大成功でした。これから寒さに気をつけながら元気に過ごしていけるようにしていきたいと思っています。



ぱんだぐみ(2歳児)だより



時々、適度な気温と心地よいそよ風が身を包むような日に遭遇すると季節が「秋」だったんだと気づかされる今日この頃。こどもたちは運動会に向けた練習に励むのと同様に「今日、お散歩?」と尋ねてくるくらいに一頃に比べ、外あそびしやすい気候を肌で感じ取っているようです。公園では定番のブランコや鉄棒の遊具やしっぽ取りゲームをしたりと元気に遊びまわって過ごしています。また、季節の移ろいは木々の色づきや落ち葉で感じ取っているうように敷き詰められた落ち葉を踏みしめたり、落ち葉を拾い集めて観察したりと探索活動に余念がありません。運動会ではかけっこ、お遊戯に親子で楽しめた玉入れやダンスで一味違った家族団らんを楽しめて良かったです。これから寒さ対策を万全にし、元気に年末を過ごしていきたいと思っています。

☆今月の唄~♪

- ★赤鼻のトナカイ
- ★きらきら星

~行事予定~

- ・体操教室 … 5日
- ・親子遠足 … 7日
- ・身体測定 … 16日
- ・英語教室 … 17日
- ・誕生会 … 20日
- ・音楽会(2歳児) … 23日
- ・避難訓練 … 24日
- ・クリスマス会 … 25日
- ・リミック教室 … 26日
- ・正月休み … 29日~1月5日
- ・保育始め … 1月6日

~保育のワンポイント~

ソビエト連邦の心理学者ヴィゴツキーは心理学のモーツァルトと呼ばれる天才で学校教育現場などのことにも関わる発達心理学において最も重要な理論を提唱した人として挙げられ、ご家庭での育児にも参考にしていただきたく取り上げた次第です。その発達理論では人との関わり、言い換えると社会的相互作用に着目し、個々のコミュニケーションには話し手と聞き手の2つの役割があり、それぞれは役割を交代しながら相互に影響を与え合い、発達に必要な情報が提供され、それが個人の中に取り入れられる(内化される)ことで新しい認識の形成が促進されるという理論を提唱しました。なお、発達において重要なコミュニケーションを行う相手は、同年齢だけでなく、より発達の進んだ年長者も含まれることにより、幅広い人々とのかわりを通じてこどもは認知的な発達を遂げると説いています。社会文化的発達理論において、ヴィゴツキーは人間の認識を(1)認識は社会文化的に規定される(2)認識は外的に存在している外的対象を個人が自己のものとして取り込む内化の活動により成立する、として人間の発達が年を重ね、大きくなることで自動的に進化するものではなく、教育的な働きかけに対し、こどもが積極的に外的刺激を取り入れようとする内化を行っていると提唱しています。これが「自力では難しい、誰かのサポートがあればできる」となり、言い換えると自ら一人でできることばかりに取組んでも効果的な成長や発達は望まず、この境目に働きかけることが成長や発達を促す上で重要だとされています。園では異年齢保育の現場ですから発達の違う子同士が触れ合うことで個々の最近接発達領域に働きかけるきっかけになればと願っています。

給食だより

(今年の12月21日)冬至は太陽の力が弱まる日であり、一陽来復という運が回復する転換点とされるので運氣の回復を願い、運盛りの食材を食べる風習が生まれました。そういった理由から、冬至には厄を追い払い無病息災を願うために、病気に強く寿命が長い「柚子」にあやかり、柚子湯に入って身体を温めたり、運を呼び込むことのできる食べ物を食べる風習が生まれました。特に関西圏では、今でも冬至に(なんきん、れんこん、にんじん、ぎんなん、きんかん、かんてん、うどん)七種を食べる風習が続いています。地域によってはこんにゃくを入れる場所もあるようですが、その地の名産などで食べるものも変わることもあるようですが、七種は(「ん」のつくもの)縁起担ぎだけでなく、栄養価も高く保管にも便利なものが多いことから冬の健康維持に役立ってきました。農林水産省によると、かぼちゃにはカロテンが多く含まれているので、ビタミンAのもとになっていて、この時季に気をつけたい風邪などの感染症予防に効果があると推奨されています。調理法としては、野菜をすべて一口サイズにカットし、鶏肉などと一緒にオリーブオイルで炒め調味料で煮込んだり、かぼちゃと人参などうどんを茹でて、トッピングにぎんなんを乗せる煮物うどんもお勧め。これから寒さが厳しくなることから、こんな料理で身も心もあったかくして元気に過ごしていけるようにしましょう!